BOSS

取扱説明書

WAZA Tube Amp Expander

技 WAZA CRAFT

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

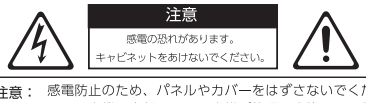
Nederlands

安全上のご注意

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」（P.2）と「使用上のご注意」（P.3）をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2019 Roland Corporation

マークについて　本機に表示されているマークには、次のような意味があります。



注意：　感電防止のため、パネルやカバーをはずさないでください。本機の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。
修理は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに依頼してください。

このマークは、本機の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・傷害を防止するには

⚠警告と⚠注意の意味について

⚠警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
⚠注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

⚠	△は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
⃠	⃠は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⃠の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
●	●は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を必ず守ってください

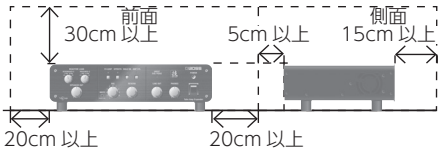
⚠警告

完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

スペースを確保して設置する

本機は多少発熱するため、下記のスペースを確保して使用してください。



分解や改造をしない

取扱説明書に書かれていないことはしないでください。故障の原因になります。

個人で修理や部品交換はしない

必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

⚠警告

次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所
- 風通しの悪い場所

不安定な場所に設置しない

本機の設置にラックを使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。

電源プラグは AC100V の電源コンセントに差し込む

電源プラグは、必ず交流（AC）100V の電源コンセントに差し込んでください。

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

電源コードを傷つけない

火災や感電の原因になります。

⚠警告

大音量で長時間使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる恐れがあります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない

本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花びんなど）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障の原因となることがあります。

異常や故障が生じたときは電源を切る

次のような場合は、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。

- 電源コードが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合やお子様が使用する場合、必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

落としたり、強い衝撃を与えたりしない

破損や故障の原因になります。

タコ足配線はしない

発熱、発火する恐れがあります。

海外でそのまま使用しない

海外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

電源コードのアースを確実に取り付ける

電源コードのアースを確実に取り付けてください。感電の恐れがあります（「電源を入れる」（P.7））。

通気口を塞がない

新聞紙、テーブル・クロス、またはカーテンなどで、本機の通気口を塞がないでください。

火の付いているものを置かない

本機の上に火の付いているもの（ローソクなど）を置かないでください。

⚠ 注意

電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、必ずプラグを持って電源コードを抜いてください。

電源プラグを定期的に掃除する

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、火災や感電の原因になります。

定期的に電源プラグを抜き、乾いた布でゴミやほこりを拭き取ってください。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因になります。

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

⚠ 注意

上に乗ったり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

移動するときはすべての接続をはずす

本機を移動するときは、電源プラグをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。

お手入れするときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと感電の原因になります。

⚠ 注意

落雷の恐れがあるときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと故障や感電の原因になります。

小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。

- 取りはずしが可能な部品
  ラック・マウント・アングルのねじ（P.11）

やけどしないように注意する

天面、底面、側面、フロント・パネルは高温になりますので、やけどしないよう注意してください。

本機の名称、および電気規格等は、本体底面に表示されています。電気的仕様については「主な仕様」（P.12）をご覧ください。

使用上のご注意

電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズで本機が誤動作したり、雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。

設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く（結露する）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

修理について

- お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
- 本機は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 周囲に迷惑がかからないように、音量に十分注意してください。
- 本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

知的財産権について

- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- 本書ではDSP技術によってエミュレートされたサウンドを適切に表現するために、各社の会社名および製品名などを使用しています。
- Roland、BOSS、Tube Logic、技／ WAZA CRAFTは、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。

重要：接続に関する注意

チューブ・アンプはスピーカー出力に何も接続しない状態で使用すると、真空管に大きなダメージを与え、故障する可能性があります。接続に関する注意は非常に重要です。お客様の大切なチューブ・アンプ、スピーカー、本機、その他の機器を破損から守るために、本項を必ず読んでください。
チューブ・アンプやスピーカー、その他の機器は必ず正しく接続／操作してください。接続／操作を間違えると、本機と接続した機器を故障させる可能性があります。間違った接続／操作による本機と接続した機器の故障について、当社は一切の責任を負いません。

接続する／接続をはずすときは必ず電源を切る

- 他の機器と接続する／接続をはずすときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。
- チューブ･アンプのスピーカー出力は、本機の背面の赤いブロックにある FROM TUBE AMP 端子に必ず接続してください。他の端子に接続した場合、本機とチューブ・アンプを故障させる可能性があります。

- チューブ・アンプのスピーカー出力に何も接続しない状態で、チューブ・アンプの電源を入れないでください。
- スピーカー・ケーブルは端子にしっかりと差し込んでください。無接続や端子への差し込みが不完全な場合、チューブ・アンプの出力が無負荷状態になり、チューブ・アンプを故障させる可能性があります。

チューブ・アンプの出力

- 本機は最大 150W までのチューブ・アンプを接続できます。
- 150W を超える出力のチューブ・アンプで使用すると本機の故障の原因になりますので、接続しないでください。

チューブ・アンプのボリューム設定

- 本機はチューブ・アンプの音のキャラクターやフィーリングを保ったまま音量を小さくして楽しめるために、チューブ・アンプのボリュームを上げすぎてチューブ・アンプに過大な負荷をかけた状態で使ってしまう可能性があります。チューブ・アンプのボリュームは適切に設定してください。特にボリュームを上げすぎて発振を起こすと、チューブ・アンプを故障させる可能性があります。

スピーカー・ケーブル

- チューブ・アンプと本機、本機とスピーカーを接続するケーブルには、必ずスピーカー・ケーブルをお使いください。ギター用のシールド・ケーブルは使わないでください。本器の故障やケーブルの発煙・発火の原因になります。

スピーカーの許容入力

- 本機に内蔵しているパワー・アンプの出力は 100W です。接続するスピーカーの許容入力は 100W 以上で使ってください。
- 100W 以下のチューブ・アンプのスピーカーを使う場合は、そのチューブ・アンプ単体で直接スピーカーを鳴らしたときと同じ音量以下で必ず使用してください。

インピーダンスの設定

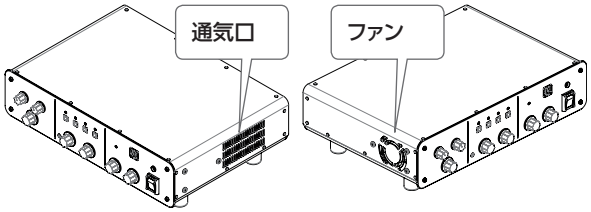
- リア・パネルのインピーダンス・スイッチ（P.6）の設定は、接続するチューブ・アンプの出力インピーダンスに合わせてください。
  ※ インピーダンス･スイッチを切り替えるときは、必ずチューブ･アンプの電源を切ってください。

電源を切るとき

- 本機の電源を切るときは必ずチューブ・アンプの電源も切ってください。本機の電源が切れた状態でチューブ・アンプの電源が入っていると、本器とチューブ・アンプを故障させる可能性があります。

放熱／オーバーヒート・プロテクションについて

- 本機は内部の温度が上昇するとファンが作動します。本機の両側面にある冷却用の通気口を塞がないでください。



- 通気口には、ほこりがたまりやすくなります。たまったほこりは取り除いてください。

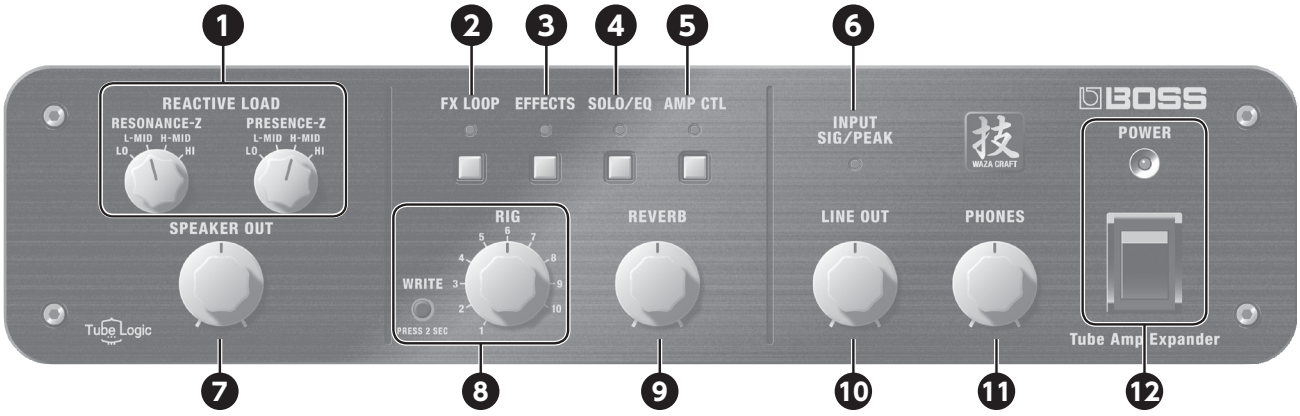
オーバーヒート・プロテクション

- 本機は内部の温度が上がりすぎるとオーバーヒート・プロテクションが作動し、POWER インジケーターが黄点滅になって本機の出力音量を制限します。

- オーバーヒート・プロテクションが作動した場合は、本機の SPEAKER OUT の音量とチューブ・アンプの音量を下げてください。また、通気口が塞がれていないか確認してください。
- 内部の温度が下がると、オーバーヒート・プロテクションは解除されます。
- なんらかの原因でファンが異常停止すると、オーバーヒート・プロテクションが作動し、POWER インジケーターが赤点滅して本機の出力をカットします。直ちに本機の電源を切り、ファンに異物がはさまっていないかなどを確認してください。異常を取り除いても直らない場合は、本機の故障の可能性があります。お買い求めの販売店に相談してください。

各部の名称とはたらき

フロント・パネル



❶ REACTIVE LOAD

リアクティブ・ロードは、チューブ・アンプから見て実際のスピーカーのように作用する負荷になります。本機は、様々なチューブ・アンプから最良の音を引き出すために、リアクティブ・ロードのインピーダンス調整機能を装備しています。

［RESONANCE-Z］つまみ

低域のインピーダンス特性を設定します。

［PRESENCE-Z］つまみ

高域のインピーダンス特性を設定します。

メモ

本書の巻末に、主なチューブ・アンプに対するつまみの推奨設定「Recommended Setting of Reactive Load」を記載しています。推奨設定を参考に、好みのセッティングにしてください。

注意

MESA/BOOGIE RECTIFIER など、ハイ・ゲイン設計されたチューブ・アンプでは、チューブ・アンプが低域で発振する場合があります。その場合は［RESONANCE-Z］つまみを LO に設定してください。

❷ ［FX LOOP］ボタン

FX LOOP SEND 端子、RETURN 端子（P.6）に接続した外部エフェクト機器へのループ（FX LOOP）をオン／オフします。

❸ ［EFFECTS］ボタン

本機に内蔵されているコンプレッサーとディレイを、一括してオン／オフします。

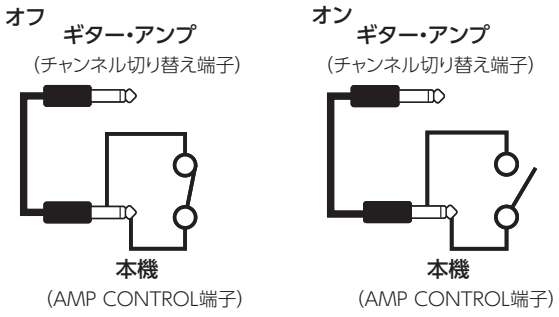
❹ ［SOLO/EQ］ボタン

イコライザーをオン／オフします。イコライザーのボリューム設定を上げておくことで、ソロ・ボタンとして使用できます。

※ イコライザーのボリュームは専用ソフトウェアで設定できます。

❺ ［AMP CTL］ボタン

チューブ・アンプのチャンネルを切り替えます。



❻ INPUT SIG/PEAK インジケーター

チューブ・アンプから、本機の FROM TUBE AMP 端子（P.6）に入力される信号のレベルを表示します。

インジケーターの色	説明
緑	信号が入ると点灯します。
赤	過大な信号レベルです。

❼ ［SPEAKER OUT］つまみ

スピーカーの音量を調節します。

❽ RIG

エフェクトや AMP CTL などの設定をひとまとめにしたものを「RIG」と呼びます。

［RIG］つまみ

本機に保存されている RIG（1 ～ 10）の設定を呼び出します。

［WRITE］ボタン

本体操作で設定したエフェクトや AMP CTL などの設定を、RIG（1 ～ 10）に保存します。

RIG の保存方法について、詳しくは「RIG を保存する」（P.8）をご覧ください。

❾ ［REVERB］つまみ

リバーブのかかり具合を調節します。

❿ ［LINE OUT］つまみ

LINE OUT L/R 端子（P.6）へ出力する音量を調節します。

⓫ ［PHONES］つまみ

PHONES 端子（P.6）へ出力する音量を調節します。

⓬ POWER

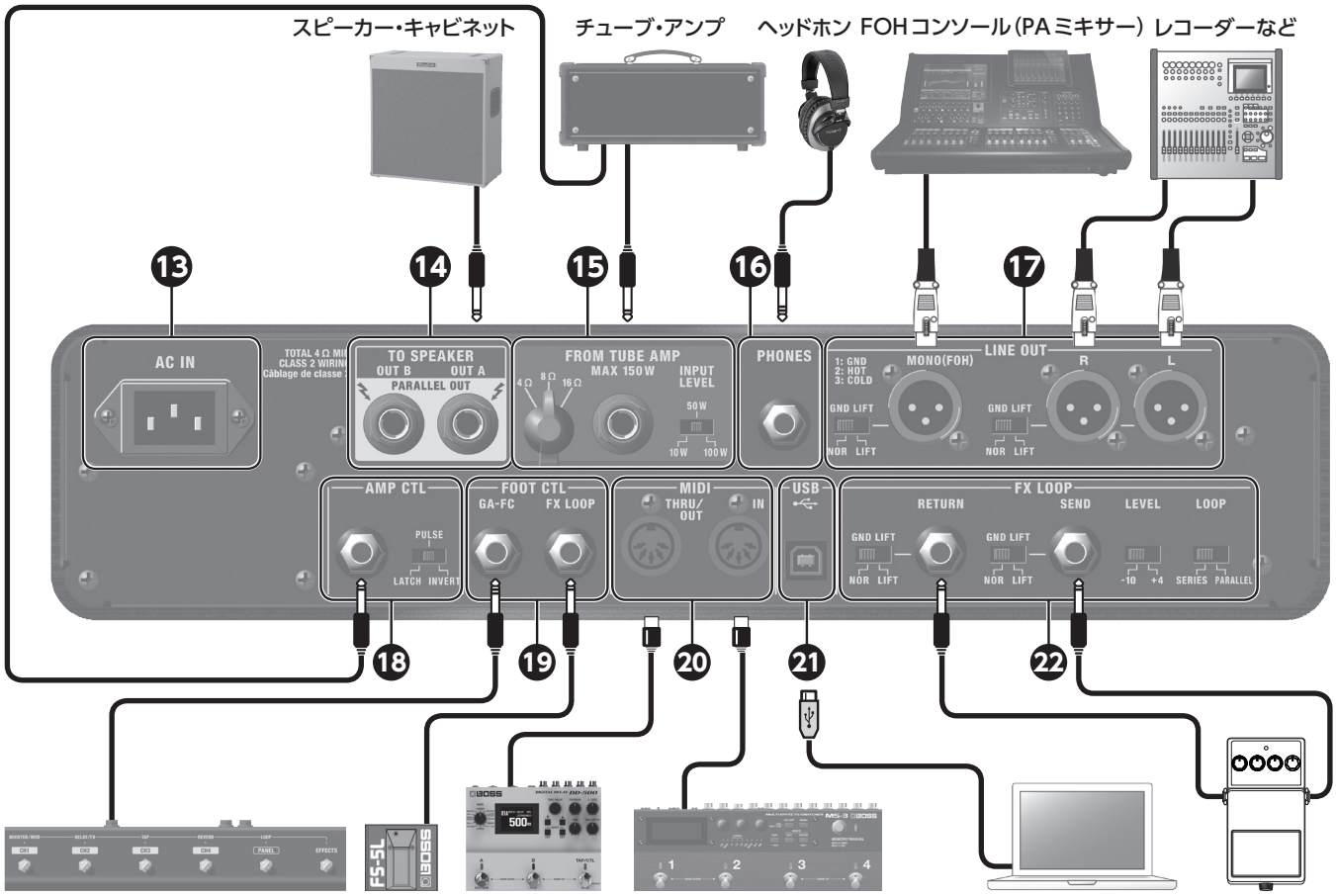
［POWER］スイッチ

本体の電源をオン／オフします。

POWER インジケーター

電源をオンにすると、青点灯します。オーバーヒート・プロテクション（P.4）が作動すると、黄点滅、または赤点滅に変わります。

リア・パネル（機器の接続）



⑬ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。

※ 電源コードは必ず付属のものを使用してください。

⑭ TO SPEAKER OUT A、B 端子

スピーカーを接続します。OUT A と OUT B は並列接続されています。OUT A と OUT B の両方に接続するときは、インピーダンスの合計が 4 Ω以上になるようにしてください。たとえば、OUT A/B 端子それぞれに 8 Ωのスピーカーを接続したときは、合成インピーダンスは 4 Ωになります。

※ スピーカーを接続する必要がなければ、接続しなくても問題ありません。

※ スピーカーとアンプが一体になったコンボ・アンプの場合は、アンプに接続しているスピーカー・ケーブルをはずして、本機の TO SPEAKER OUT A、B 端子に接続します。スピーカー・ケーブルが本機まで届かない場合は、別途、延長用のスピーカー・ケーブルを用意してください。

⑮ FROM TUBE AMP 端子

チューブ・アンプのスピーカー出力を接続します。出力 150W までのチューブ・アンプを接続できます。

チューブ・アンプに複数のスピーカー出力がある場合は、本機のみを接続してください。本機の他にスピーカーも接続すると、チューブ・アンプが故障する可能性があります。

※ チューブ・アンプ以外の機器を接続しないでください。本機と接続した機器を故障させる可能性があります。

インピーダンス・スイッチ

接続するチューブ・アンプの出力インピーダンスに合わせます。2 Ωのチューブ・アンプの場合は 4 Ωに合わせてください。

※ インピーダンス・スイッチを切り替えるときは、必ずチューブ・アンプの電源を切ってください。

[INPUT LEVEL] スイッチ

接続するチューブ・アンプの出力 W 数に合わせます。チューブ・アンプが 10W、50W、100W の間の出力の場合、たとえば 20W であれば、10W、50W のどちらかにして音を入力して、フロント・パネルにある INPUT SIG/PEAK インジケーターが赤点灯しない方に合わせてください。

⑯ PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

⑰ LINE OUT

MONO (FOH) 端子

FOH コンソール（PA ミキサー）の入力に接続します。モノ出力で、レベルは固定です。フロント・パネルの [LINE OUT] つまみは効きません。

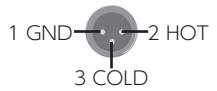
LINE OUT L/R 端子

録音用ミキサーやパワード・モニター・スピーカーに接続します。

[GND LIFT] スイッチ

LINE OUT L ／ R、LINE OUT MONO (FOH)、SEND、RETURN のグランドを本機のグランドと接続する／しないを切り替えます。グランド・ループなどによるノイズが発生した場合は、スイッチを切り替えます。通常は NOR（ノーマル）に設定しておきます。

※ LINE OUT L/R、MONO (FOH) 端子のピン配置



⑱ AMP CTL

AMP CTL 端子

チューブ・アンプのチャンネル切り替え端子に接続すると、本機からチャンネルを切り替えることができます。

[AMP CTL] スイッチ

AMP CTL 端子の動作を設定します。

設定値	説明
LATCH	ラッチ動作 オフ オン オフ オン
PULSE	パッチ切り替え時、パルスを送信 PULSE 切り替え 切り替え
INVERT	INVERT 切り替え 切り替え

⑲ FOOT CTL

FX LOOP 端子

フットスイッチ（別売:FS-6、FS-7、または FS-5L）を接続して、外部エフェクト機器へのループ（FX LOOP）のオン／オフの切り替えができます。

GA-FC 端子

GA-FC（別売）を接続して、RIG の切り替えやエフェクトのオン／オフなどができます。詳しくは「フット・コントロール機能を使う」（P.8）をご覧ください。

⑳ MIDI IN、THRU/OUT 端子

外部 MIDI 機器を接続します。詳しくは「外部 MIDI 機器を接続する」（P.10）をご覧ください。

㉑ USB 端子

USB ケーブルでパソコンに接続して、本機とパソコンとの間でオーディオ／ MIDI を送信／受信します。詳しくは「パソコンに接続する」（P.10）をご覧ください。

㉒ FX LOOP SEND ／ RETURN 端子

外部エフェクターを接続します（モノ）。SEND 端子に外部エフェクターのインプットを、RETURN 端子に外部エフェクターのアウトプットを接続します。SEND 端子は、[FX LOOP] ボタンがオン時のみ信号が出力されます。

[LOOP] スイッチ

設定値	説明
PARALLEL	外部エフェクト音とダイレクト音がミックスされます。
SERIES	外部エフェクト音のみになります。

※「SERIES」に設定しているとき、外部エフェクターの音量が絞られていたり電源が入っていなかったりすると、音が出ません。

[LEVEL] スイッチ

外部エフェクターの基準レベルに合わせて SEND ／ RETURN 端子の基準レベルを -10dBu または +4dBu に設定します。

電源を入れる

※ 正しく接続したら（P.6）、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

1. 本機の SPEAKER OUT、LINE OUT、PHONES のつまみと本機に接続されている機器の音量が、「0」になっていることを確認します。

2. 本機の電源を入れます。

3. チューブ・アンプの電源を入れます。

4. その他の接続されている機器の電源を入れます。

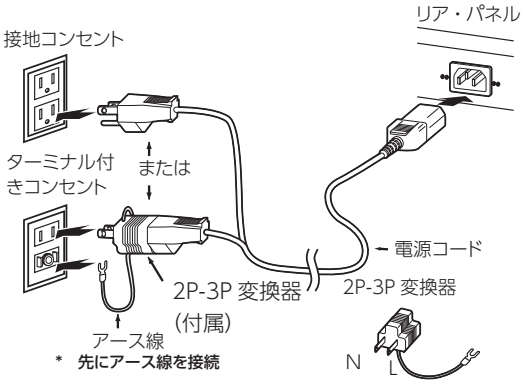
電源を切るときは、接続している他の機器の音量を絞ってから、電源を入れるときと反対の手順で電源を切ります。

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

※ 完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。
詳しくは「完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く」（P.2）をお読みください。

電源コードの接続

感電を防ぐために付属の電源コードを使用し、アースを確実に取り付けてください。
付属の電源コードには、感電と機器の損傷を防ぐためにアース用電極端子を加えた 3 端子のプラグがついています。



- **コンセントが接地コンセント（端子穴が 3 個）の場合**
  そのままコンセントにプラグを差し込んでください。
- **コンセントがアースターミナル付きコンセント（端子穴が 2 個）の場合**
  プラグに 2P-3P 変換器を付け、アース接続後コンセントに差し込みます。

⚠ **警告:** アースは必ず、電源プラグをコンセントに差し込む前に接続してください。また、アースをはずすときは必ず、先に電源プラグをコンセントから抜いてください。

※ コンセントにアース端子がない場合は、電気工事店に接地工事を依頼してください。

RIG を保存する

本体で設定したエフェクトや、アンプ・コントロールの設定を RIG1 ～ 10 に保存することができます。

RIG に保存できる設定

- FX LOOP のオン／オフ
- EFFECTS（コンプレッサーとディレイ）の設定
- SOLO ／ EQ の設定
- AMP CTL の設定
- REVERB の設定

現在選ばれている RIG に上書き保存する

1. ［WRITE］ボタンを 2 秒以上押します。

［WRITE］ボタンが赤点滅して保存されます。

RIG を選んで保存する

1. ［WRITE］ボタンを押します。

［WRITE］ボタンが緑点滅すると、RIG が選べる状態になります。

2. ［RIG］つまみを回して保存したい RIG（1 ～ 10）を選びます。

※ この状態から WRITE 操作をキャンセルするときは［WRITE］ボタンを押します。

3. ［WRITE］ボタンを 2 秒以上押します。

［WRITE］ボタンが赤点滅して保存されます。

※ RIG に保存すると上書きされます。工場出荷時の設定も上書きされます。

※ 専用ソフトウェアを使って、さらに細かな設定の編集や RIG のライブラリーの管理ができます。詳しくは「パソコンに接続する」（P.10）をご覧ください。

※ 工場出荷時の RIG リストは、『WAZA Tube Amp Expander エディターの使い方』（PDF）をご覧ください。

工場出荷時の設定に戻す

本体に記憶した設定を、工場出荷時の設定に戻します（ファクトリー・リセット）。

1. ［FX LOOP］ボタンを押しながら電源を入れます。

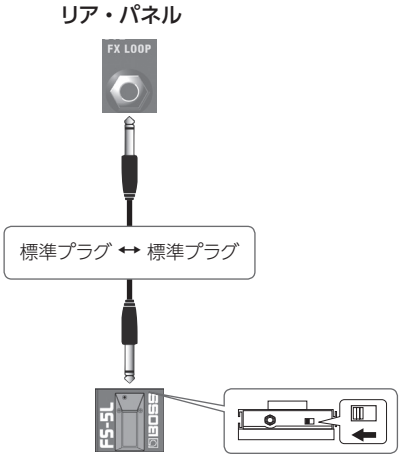
FX LOOP から AMP CTL までのボタンが左から順番に、繰り返し点滅します。点滅が終了したら本体すべての設定が工場出荷時の状態に戻ります。

※ ファクトリー･リセットが完了するまで、約 10 秒かかります。ファクトリー・リセットの実行中は電源を切らないでください。

フット・コントロール機能を使う

FX LOOP 端子

FX LOOP のオン／オフの切り替えができます。



※ 本機はラッチ・タイプのフットスイッチ（別売：FS-6、FS-7、FS-5L）に対応しています。モーメンタリー･タイプのフットスイッチ（FS-5U 等）は使用できません。

GA-FC 端子

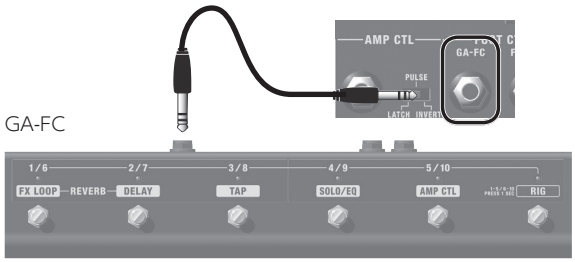
GA-FC で内蔵エフェクトのオン／オフを切り替えたり、RIG1 ～ 10 を選んだりすることができます。

GA-FC の接続

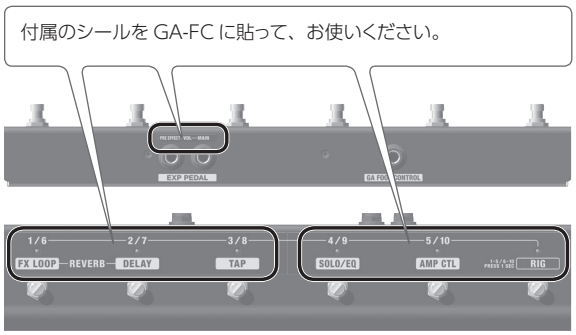
GA-FC 端子にステレオ・ケーブルで接続します。

※ 必ずステレオ・ケーブルを使用してください。

※ 抵抗の入っていないケーブルを使用してください。



GA-FC の操作方法



［RIG］スイッチを押して、エフェクト・モード／ RIG モードを切り替えます。RIG モードで 1 秒以上長押しすると、RIG1 ～ 5 ／ RIG6 ～ 10 が切り替わります。

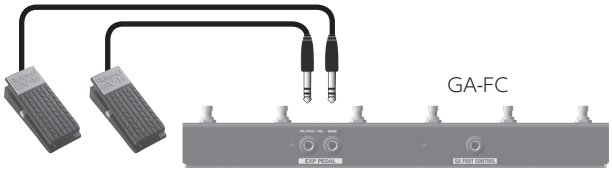
モード	インジケーター	説明
エフェクト・モード	消灯	各スイッチでエフェクトのオン／オフを切り替えます。
RIG モード（1 ～ 5）	点灯	RIG1 ～ 5 を切り替えます。
RIG モード（6 ～ 10）	点滅	RIG6～10を切り替えます。

エフェクト・モードの操作

スイッチ	説明
FX LOOP	FX LOOP をオン／オフします。
FX LOOP + DELAY	FX LOOP と DELAY を両方押すと、リバーブをオン／オフします。
DELAY	ディレイをオン／オフします。
TAP	ディレイ・タイムを設定します。2 回以上押すと、ボタンを押した間隔がディレイ・タイムになります。
SOLO/EQ	ソロ／イコライザーをオン／オフします。
AMP CTL	AMP CTL をオン／オフします。

エクスプレッション・ペダルを使う

エクスプレッション・ペダル（別売：Roland EV-5、BOSS FV-500L、BOSS FV-500H、BOSS EV-30）を接続すると、ペダルを使って音量を変化させることができます。ペダルを 2 台接続すると、プリ･エフェクト（エフェクトをかける前）とメイン（SPEAKER OUT と LINE OUT）のそれぞれの音量を変化させることができます。



端子	説明
PRE EFFECT	プリ･エフェクト（内蔵エフェクトの前）の音量を調節します。
MAIN	メイン（SPEAKER OUT と LINE OUT）の音量を調節します。

エクスプレッション・ペダルの MINIMUM VOLUME を設定する

エクスプレッション･ペダルの［MINIMUM VOLUME］つまみで、ペダルを戻したときの値（最下限値）を設定することができます。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

※ 専用ソフトウェアを使うと、エクスプレッション･ペダルのボリューム・カーブを設定することができます。設定方法について、詳しくは『WAZA Tube Amp Expander エディターの使い方』（PDF）をご覧ください。

外部 MIDI 機器を接続する

本機では、MIDI を使って次の操作をすることができます。

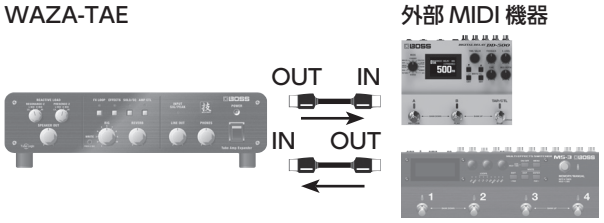
本機からの操作

操作	説明
プログラム・チェンジ情報の出力	本機で RIG を選ぶと同時に、RIG MIDI で設定したプログラム・チェンジ情報が送信されます。外部 MIDI 機器は受信したプログラム・チェンジ情報に対応したセッティングに切り替わります。
コントロール・チェンジ情報の出力	本機で RIG を選ぶと同時に、RIG MIDI で設定したコントロール・チェンジ情報が送信されます。フットコントローラー GA-FC に接続したエクスプレッション・ペダルの操作情報をコントロール・チェンジ情報として出力します。外部 MIDI 機器のパラメーター操作などに利用できます。

外部 MIDI 機器からの操作

操作	説明
RIG ナンバーの切り替え	外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報に対応して、本機の RIG が切り替わります。
コントロール・チェンジ情報の受信	コントロール・チェンジ情報を受信して、指定したパラメーターを演奏中にコントロールすることができます。

接続例



MIDI の設定方法について、詳しくは『WAZA Tube Amp Expander エディターの使い方』（PDF）をご覧ください。

パソコンに接続する

本機を USB 経由でパソコンと接続すると、以下のことができます。

- パソコンとの間でデジタル・オーディオ信号を送受信
- 専用ソフトウェアを使って、パソコン上で RIG の編集や管理、『WAZA Tube Amp Expander 取扱説明書』（PDF）ダウンロード・ページの表示

USB ドライバーのインストール

パソコンに接続するには、USB ドライバーをインストールする必要があります。

USB ドライバーは、ボスのホームページからダウンロードしてください。

USB 接続をする前に、専用ドライバーをインストールしてください。詳しくは、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をお読みください。

➡ **https://www.boss.info/jp/support/**

ドライバーは、ご使用の環境によってインストールするプログラムや手順が異なりますので、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をよく読んだうえでお使いください。

オーディオ・インターフェースとして使う

本機の音をパソコンに録音したり、パソコンの音を本機の OUTPUT 端子から出力したりすることができます。

※ USB 接続時のオーディオ信号の流れと設定方法について、詳しくは『WAZA Tube Amp Expander エディターの使い方』（PDF）をご覧ください。

※ 各ソフトウェアの入力元の切り替えかたは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

専用ソフトウェアを使う

専用ソフトウェアは、ボスのホームページからダウンロードしてください。

➡ **https://www.boss.info/jp/support/**

専用ソフトウェアでは以下のことができます。

- RIG の設定を編集できます。
- RIG に RIG 名を付けることができます。
- RIG の順番を並べ替えたり、入れ替えたりすることができます。
- RIG と本体の設定をバックアップしたり、バックアップした設定に戻したりすることができます。
- WAZA Tube Amp Expander 取扱説明書のダウンロード・ページを表示することができます。

IR データを取り込む

専用 IR ローダー (ソフトウェア) を使うことで、最大 32 個の IR データを本機に取り込むことができます。

専用 IR ローダーは、ボスのホームページからダウンロードすることができます。

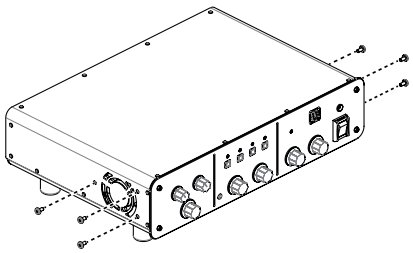
➡ **https://www.boss.info/jp/support/**

ラック・マウントについて

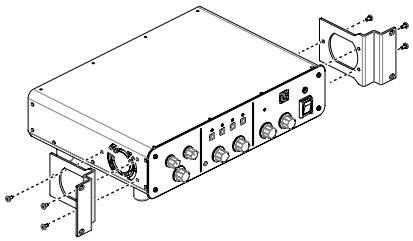
本機に付属のラック・マウント・アングルを取り付けることで、ラックにマウントすることができます。

ラック・マウント・アングルの取り付け

1. サイド・パネルからネジをはずします。

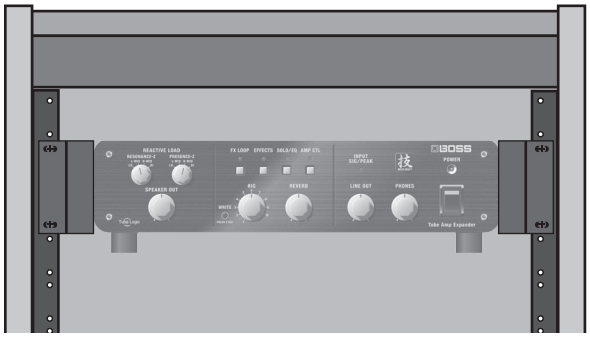


2. はずしたネジを使って、図のようにアングルを取り付けます。



※ 取り付けるねじは、必ずはずしたねじを使ってください。
※ 他のねじははずさないでください。

ラックにマウントする



※ 放熱のため、本機の上下には必ず 1U 以上のスペースを空けてください。

ラック・マウント時のご注意

- 通気性のよい場所に設置してください。
- 本機の両側面にある通気口を塞がないでください。
- 密閉タイプのラックへのマウントは避けてください。ラック内の暖まった空気を排出できないため、本体内に暖まった空気を吸入することになり、効率のよい冷却ができません。
- ラック背面を開放できない場合は、暖かい空気がたまるラック後面上部に、排気口または排気ファンを設けてください。
- 移動用ケース（ポータブル・ラック）などにマウントする場合は、ケースの前面と背面のふたをはずし、本機の前面と背面を塞がないようしてください。
- ラックにマウントするときは、指などをはさまないようにご注意ください。

主な仕様

ボス WAZA Tube Amp Expander（WAZA-TAE）：チューブ・アンプ・エクスパンダー

許容入力	FROM TUBE AMP：150W
保護抵抗 （電源オフ時）	FROM TUBE AMP：16 Ω
定格出力	TO SPEAKER：100W（8 Ω）
負荷インピーダンス	TO SPEAKER：4 ～ 16 Ω
入力インピーダンス	FROM TUBE AMP：4 ／ 8 ／ 16 Ω切り替え FX LOOP RETURN：1M Ω
出力インピーダンス	LINE OUT L ／ R：600 Ω LINE OUT MONO (FOH)：600 Ω FX LOOP SEND：1k Ω
規定出力レベル	LINE OUT L ／ R：+4dBu LINE OUT MONO (FOH)：+4dBu
FX LOOP 規定入出力レベル	-10 ／ +4dBu 切り替え
最大出力レベル	LINE OUT L ／ R：+20dBu LINE OUT MONO (FOH)：+20dBu FX LOOP SEND：+6dBu（-10）／ +20dBu（+4）
コントロール	POWER スイッチ SPEAKER OUT つまみ LINE OUT つまみ PHONES つまみ RESONANCE-Z つまみ PRESENCE-Z つまみ RIG つまみ REVERB つまみ FX LOOP ボタン EFFECTS ボタン SOLO/EQ ボタン AMP CTL ボタン SPEAKER IMPEDANCE スイッチ INPUT LEVEL スイッチ L ／ R GND LIFT スイッチ MONO (FOH) GND LIFT スイッチ LOOP スイッチ LEVEL スイッチ SEND GND LIFT スイッチ RETURN GND LIFT スイッチ AMP CTL スイッチ
インジケーター	POWER WRITE FX LOOP EFFECTS SOLO/EQ AMP CTL INPUT SIG/PEAK
接続端子	FROM TUBE AMP 端子：標準タイプ SPEAKER OUT 端子（OUT A、OUT B）：標準タイプ LINE OUT L ／ R 端子：XLR タイプ LINE OUT MONO (FOH) 端子：XLR タイプ PHONES 端子：ステレオ標準タイプ SEND 端子：標準タイプ RETURN 端子：標準タイプ FX LOOP 端子：標準タイプ GA-FC 端子：TRS 標準タイプ AMP CTL 端子：標準タイプ USB 端子：USB B タイプ MIDI（IN、THRU/OUT）端子 AC IN 端子
電源	AC100V（50 ／ 60Hz）
消費電力	100W
外形寸法 ※ ゴム足含む	380（幅）× 296（奥行）× 110（高さ）mm
質量	6.8kg
付属品	取扱説明書 電源コード 2P-3P 変換器 ラック・マウント・アングル（EIA-2U）× 2 保証書 ローランド ユーザー登録カード GA-FC シール
別売品	フットスイッチ：BOSS FS-5L エクスプレッション・ペダル：Roland EV-5、BOSS FV-500H、BOSS FV-500L、BOSS EV-30 GA Foot Controller：BOSS GA-FC 接続ケーブル：Roland RIC-G3、Roland RIC-B3、Roland MSC-15 ／ 25 ／ 50、BOSS BIC-10 ／ 20、BOSS BSC-3

※ 0dBu = 0.775Vrms

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

お問い合わせの窓口

ホームページをご覧ください

Q&A、チャットサポート、メール、電話でのお問い合わせ

Roland製品

https://roland.cm/roland_support

BOSS製品

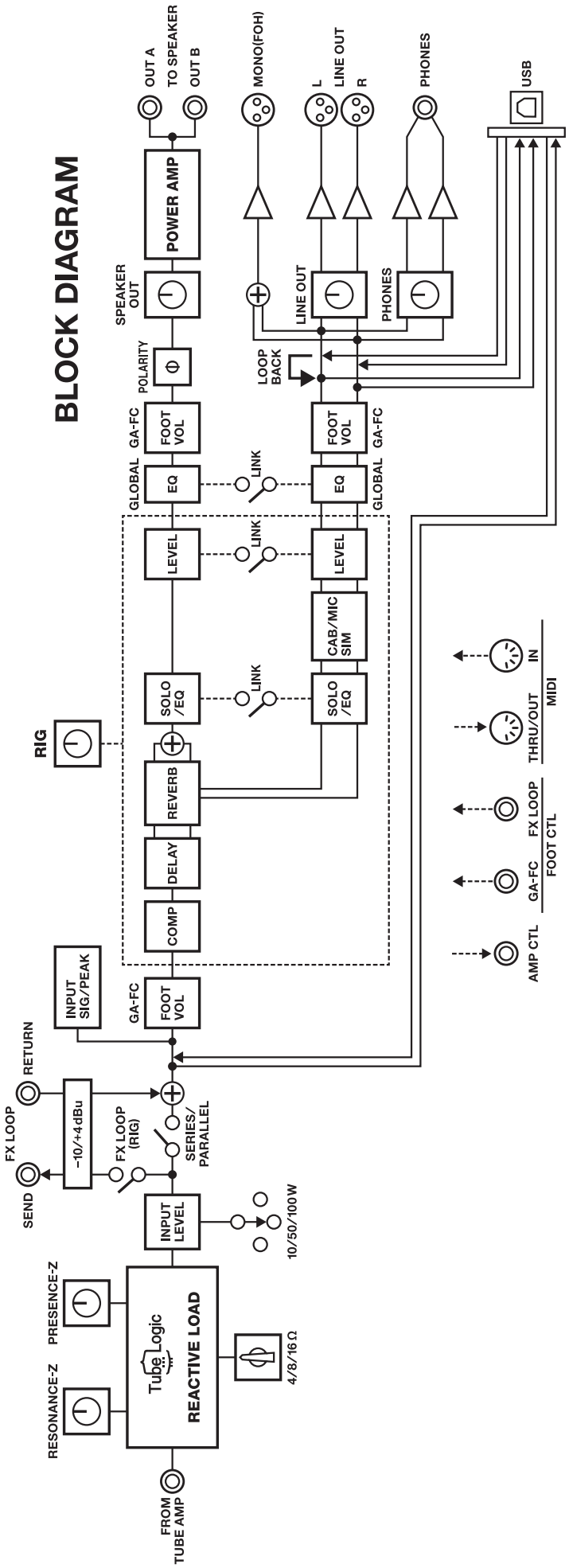
https://roland.cm/boss_support

'21. 04. 01 現在

ローランド株式会社

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1

Block Diagram



Recommended Setting of Reactive Load

Tube Amp	Cabinet	RESONANCE-Z	PRESENCE-Z
R-FIER STACK (MESA/Boogie Rectifier)	4x12" CLOSED	LO	LO
HIGH GAIN STACK (Friedman BE-100)	4x12" CLOSED	H.MID	L.MID
BRIT STACK (Marshall JCM800)	4x12" CLOSED	HI	HI
CLASSIC STACK (Marshall 1987)	4x12" CLOSED	H.MID	HI
SUPER COMBO (Fender Super Reverb)	4x10"	L.MID	L.MID
TWEED COMBO (Fender Bassman)	4x10"	H.MID	H.MID
DIAMOND AMP (VOX AC-30)	2x12"	H.MID	HI
TWEED DELUXE (Fender Tweed Deluxe)	1x12"	L.MID	HI
DELUXE COMBO (Fender Deluxe Reverb)	1x12"	L.MID	H.MID
MINI COMBO (Fender Champ)	1x8"	L.MID	H.MID